

(2) 適性診断業務

(中期目標)

- ① 診断内容の高度化、受診者・事業者利便の向上等を図るため、診断機器の研究開発・導入を行うこと。

(中期計画)

- ① 効果を勘案しつつ、自動視野測定機の導入、アイカメラ・シミュレーターの開発・試行導入など機器の充実を行い、認知分野も含めた診断内容の高度化を図る。さらに貸出し用自動診断機器の開発を行い、全国に配備し、受診者・事業者の利便性を向上させる。

(年度計画)

- ① 業務実績等を踏まえつつ、更に、自動視野測定器を10台以上導入し、受診者・事業者の利便性を向上させる
また、アイカメラ・シミュレーターについては、診断結果判定基準案を作成し、効果の検証を行う。

◎ 年度計画における目標設定の考え方

- 自動視野測定器は、利用希望者数の多い支所を優先に導入することとした。
- アイカメラ・シミュレーターは、同機器の試行導入に向け、診断結果判定基準案を作成するとともに、同機器による活用効果の検証を行うこととした。

◎ 当該年度における取組み及び中期目標達成に向けた次年度の見通し

1) 平成17年度における取組み

- 自動視野測定器※は、診断内容の高度化を図るため、利用希望者数の多い支所を優先に、改良型を昨年度に引き続き、10台導入した。
なお、平成17年度導入した機器は、下表のとおり。



項 目	導 入 機 器 仕 様
形 態	274(幅)×332(奥行)×307(高さ)mm
重 量	4.6kg
仕 様	スクリーニングポイント 77
付 属	インターフェイス(簡易プリンタ内蔵)
最大視標輝度	10,000ASB
ドーム範囲	300mm
測定時間	約3分(両眼で機器セット時間込み)
※ 自動視野測定器とは、緑内障等による視野狭さくを、全方位にわたり検査する視覚機能測定機器	

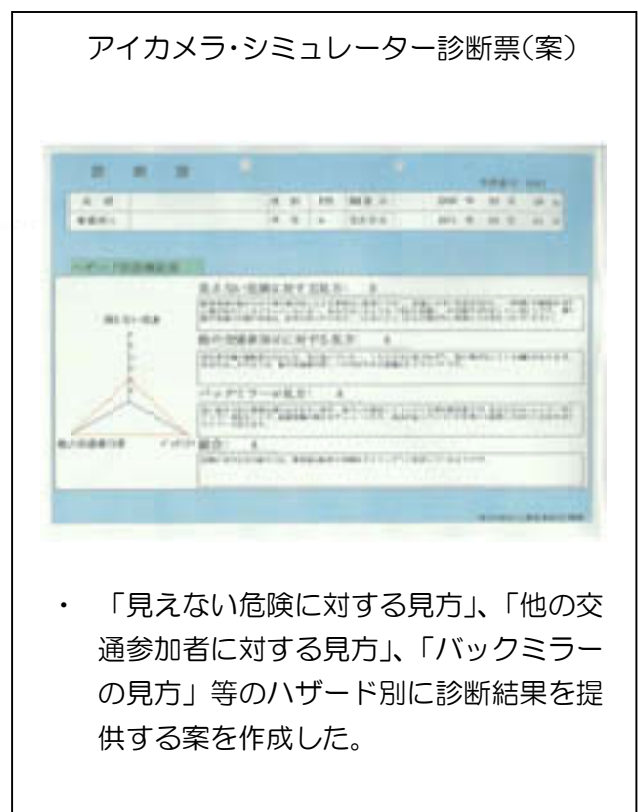
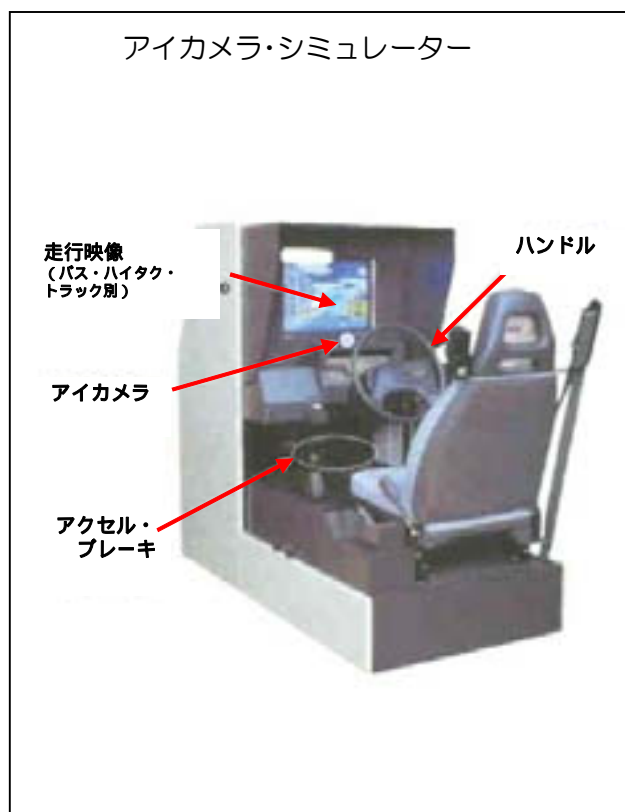
○ アイカメラ・シミュレーターの平成18年度試行導入にむけ、診断結果判定基準案を作成した。

また、「アイカメラ・シミュレーター検討委員会」を開催し、運用方法、診断データの提供方法等を検討するとともに、実証実験を行い同機器の活用効果等の検証をした結果、運転者教育・指導等に効果的であることが確認された。なお、以下のような要望・指摘がなされた。

- ・ アイカメラ・シミュレーター診断は、運転者教育指導に有用であると考えられるのでぜひ導入して欲しい、また運用にあたっては安価で多くの運転者に実施して欲しい、事業者への貸出しを可能にしてほしい、などの要望があることがわかった。
- ・ アイカメラ・シミュレーターの改良点については、運行管理者が測定結果を活用し易いように運転者の目の動きの記録を映像情報として提供できるように改良すること、測定の準備に時間がかかる点を改良することなどが、指摘された。

■ アイカメラ・シミュレーターの概要

- ・ 実写映像を用い、現実に近い交通場で診断することができる。
- ・ 非接触型のアイカメラを搭載し、受診者にストレスを与えずに目の動きを観察、記録することが可能。
- ・ 事業用車両（バス、ハイタク、トラック）の違いを考慮して、それぞれの業態に応じた運転映像を提示させることが可能。
- ・ 受診者の運転行動と目の動きを同時に記録可能。
- ・ 記録された運転行動と目の動きを再現させることが可能。



- ・ 「見えない危険に対する見方」、「他の交通参加者に対する見方」、「バックミラーの見方」等のハザード別に診断結果を提供する案を作成した。

■ アイカメラ・シミュレーター検討委員会の開催

学識経験者、運送事業者及び適性診断担当者を委員とするアイカメラ・シミュレーター検討委員会を開催し、運用方法、診断データの提供方法等を検討するとともに活用効果等の検証を行った。

■ アイカメラ・シミュレーターの東京モーターショーへの出展

周知活動及び情報収集等の一環として、同機器を東京モーターショーに出展し、受診体験者から試行導入に向けての操作方法等の改善に関する情報を収集した結果、多くの人が、「注意の向け方と安全運転には関係がある」、「優良ドライバーの目の動きを知りたい」と考えていることが分かった。

アイカメラ・シミュレーター検討委員会



- ・ アイカメラ・シミュレーターの運用方法、診断データの提供方法等の検討、活用効果等の検証を行った。

東京モーターショー出展



- ・ アイカメラ・シミュレーターの改善に関する情報の収集を行った。

2) 次年度の見通し

- 前年度に引き続き、支所に自動視野測定器を導入し診断内容の高度化を目指す。
- 次年度は、アイカメラ・シミュレーターによる診断結果コメント案の作成を行ったうえで、同機器を支所に試行導入しつつ、改良を行いその評価を行う。

◎ その他適切な評価を行う上で参考となり得る情報

1. アイカメラ・シミュレーターについてのテレビ取材

- ・ TBS「イブニングファイブ」特集コーナー（平成18年2月13日放送）

女性ドライバーの運転についての特集において、アイカメラ・シミュレーターの受診体験から、運転に自信のない女性パーパードライバーは運転時に発見の遅れがあり、プロドライバー（女性タクシー運転手）は危険を予測した見方をすることを紹介した。

- ・テレビ朝日「スーパーJチャンネル」ニュース特集・Jのこだわり（平成18年2月14日放送）
事故防止啓発活動に期待されるアイカメラ・シミュレーターの活用効果について、無事故（優良）運転者と、事故惹起運転者の違いについて、視点の動きの違いの傾向を説明し、同機器の活用方法等について、PRした。

2. 中部国際空港の道路標識の改善にアイカメラ・シミュレーターを試行的に活用して協力

- ・中部国際空港を車で訪れるドライバーが道を間違え目的の駐車場等へたどり着くことができない状況が発生していることから、中部国際空港(株)からの要請に基づき、当機構のアイカメラ・シミュレーターを活用し、一般ドライバーの視点を調査することにより、空港内の道路標識の改善に協力した。

○アイカメラ・シミュレーターを使用した調査



（中期目標）

- ② 診断結果を運転・運行管理に効果的に活用するため、助言内容の充実やカウンセリングの実施や指導講習との有機的な連携により、診断結果をより一層わかりやすく適切に提供すること。

（中期計画）

- ② 業態別等の診断結果の助言内容の充実、最新の事故事例研究・分析に基づくカウンセリング技法や小集団技法等の向上による助言指導の充実を図るとともに、運行管理者を対象とした適性診断活用講座を中期目標期間中に全支所において実施する。

（年度計画）

- ② 危険感受性テスト・重複作業反応テストの結果に基づく助言内容を業態別等に改良するとともに、引き続き、最新の事故事例研究・分析に基づく診断技法について、全カウンセリング担当職員に対して研修を実施し、適性診断の質を向上させる。
また、引き続き、平成15年度に策定した実施マニュアルに基づいた研修を職員に行うとともに、全支所において、適性診断活用講座を実施する。

◎ 年度計画における目標設定の考え方

- 業態別の診断結果を充実させるため、前年度（平成16年度）に引き続き、全6種類のテストのうち、残りの危険感受性テストの助言内容は、平成17年度に改良し、重複作業反応テストの助言内容は、平成17年度から平成18年度にかけて改良することとした。
- 前年度（平成16年度）に引き続き、最新の事故事例を適性診断に反映させるため、全カウンセリング担当職員に対して最新の事故事例研究分析に基づく診断技法の研修を実施することとした。
- 平成15年度に策定した適性診断活用講座実施マニュアルを用いて、職員に対する研修を行うとともに、全支所にて実施することとした。

◎ 当該年度における取組み及び中期目標達成に向けた次年度の見通し

1) 平成17年度における取組み

- 既に改良済みの処置判断テスト・速度見越反応テストに引き続き、危険感受性テストの助言内容について、適性診断結果から予想される運転行動の例を記載し、より具体的に業態別に記述することにより適性診断結果と運転行動の関係がイメージしやすくなり、運転者にとってはわかりやすく、管理者にとっては助言・指導しやすくなるため、下記のように7種から28種類へと充実させた。
また、重複作業反応テストの助言内容については、業態別に素案を作成した。

適性診断項目の改良状況

適性診断項目		改良前のコメントの 種 類	改良後のコメントの 種 類	改良状況
性 格 テ ス ト	1. 感情の安定性	4種類	業態別に計18種類	平成 15 年度 に改良済
	2. 協調性	4 種類	業態別に計 10 種類	
	3. 気持ちのおおらかさ	4 種類	業態別に計 10 種類	
	4. 他人に対する好意	4 種類	業態別に計 10 種類	
5. 安全態度		7 種類	業態別に計 168 種類	
6. 注意の配分		3 種類	業態別に計 20 種類	平成 16 年度 に改良済
7. 判断・動作のタイミング		7 種類	業態別に計 20 種類	
8. 危険感受性		7 種類	業態別に計28種類	平成17年度 に改良済
9. 動作の正確さ		次年度以降改良		

〔適性診断の流れ〕

適性診断テストの実施



適性診断テスト結果の判定・助言内容の作成（電算処理）

【改良前：危険感受性コメント例】

交通の状況をよくみて、正確にとらえようとする点は、申し分ありませんが、「先を急ぐ傾向」がかなり強くみられますので、この点はとくに改めるよう心掛けてください。

先を急ぐ気持ちが強く働くと、状況を正確にとらえても判断は甘くなりがちで、他の車と張り合うなどして、きわどい運転が多くなるものです。いろいろな周囲にまき散らすことにもなりかねません。

先を急ぐかわりに、相手に道を譲るくらいの気持ちを持たれては、いかがでしょうか。

道を譲ることにより、気持ちの上でも、運転の上でも、余裕が生まれるものです。

そうすれば、あなたの持ち前である交通の状況を正確にとらえる点がさらに生かされ、安全な運転が行えるようになります。



○ 業態別にコメントを作成

【改良後：危険感受性コメント例】

交通の状況をよくみて、正確にとらえようとする点は申し分ありません。しかし、「先を急ぐ傾向」がかなり見受けられます。



業態別コメント例

<バス>

特に発着時間を気にしている時は先を急ぐ傾向が表れやすいものです。判断が甘くなり急発進や急加速などの強引な運転が多くなることはありませんか。周囲にいろいろなまき散らすばかりか、お客様の安全に配慮することにもなりかねません。

<ハイタク>

特にお客様の要望に応えようとしている時は先を急ぐ傾向が表れやすいものです。判断が甘くなり他の車と張り合うことはありませんか。周囲にいろいろなまき散らすばかりか、お客様の安全に配慮することにもなりかねません。

<トラック>

特に配送の遅れを気にしている時は先を急ぐ傾向が表れやすいものです。前車の速度を遅く感じて強引に追いついたり、接近しすぎたりして周囲に威圧感や恐怖心を与えることはありませんか。

<自家用>

たとえば、右左折、信号の発信など、きわどいタイミングで自動車を走らせても、自分なら行ける、急いでいる自分を優先させてほしい、などと無意識に考え、強引な運転になっていませんか。



交通の状況を正確にとらえる点をさらに生かすためにも、相手に道を譲るくらいの気持ちを持たれてはいかがでしょう。

道を譲ることにより、気持ちの上でも、運転の上でも、余裕が生まれ、先を急ぐ傾向は抑えられるでしょう。



適性診断結果に基づく助言・指導の実施

○ 全カウンセリング担当職員に対して最新の事故事例研究・分析に基づく診断技法の研修を実施した。

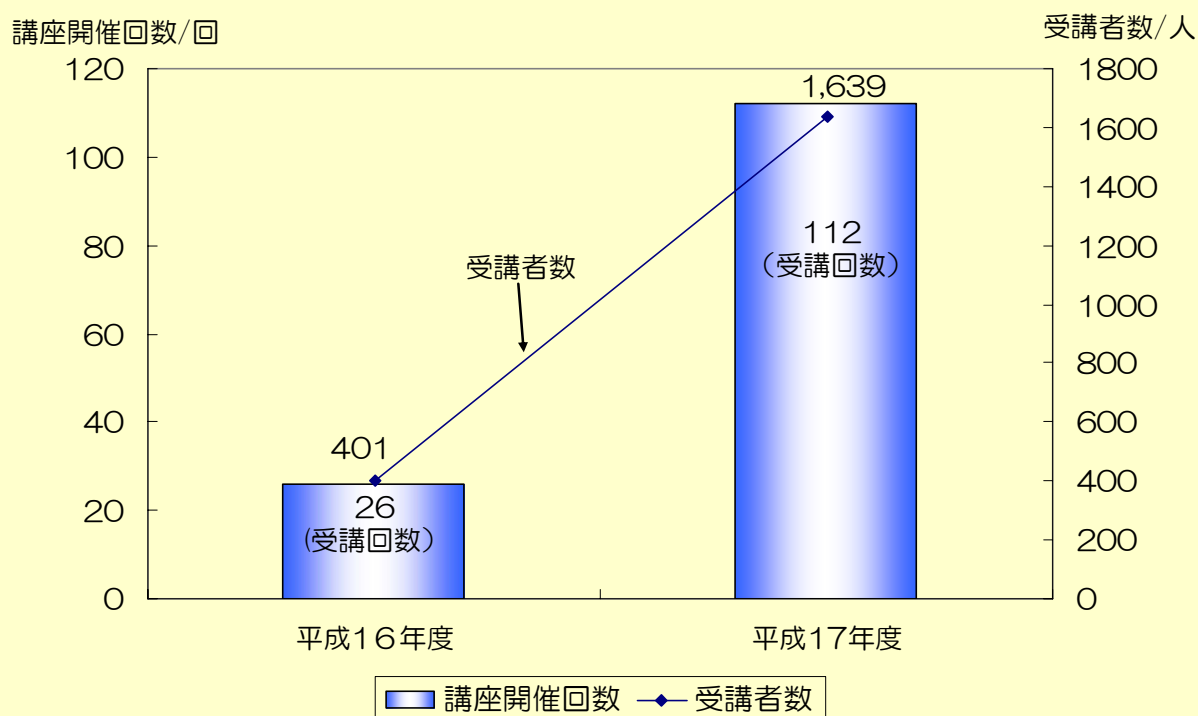
- ・全カウンセリング担当職員（特定適性診断員）教育・訓練
- ・対象者 114人
- ・研修項目 最新の事故事例研究・分析に基づく診断技法

「自動車運送事業に係る交通事故要因分析報告書（平成16年度）」にある事故事例から運転者に係る「問題点の考察」と「対応策の検討」を参考に、事故再発防止のための効果的な助言指導を行えるよう、小集団による事例検討を行い診断技法の向上を図った。

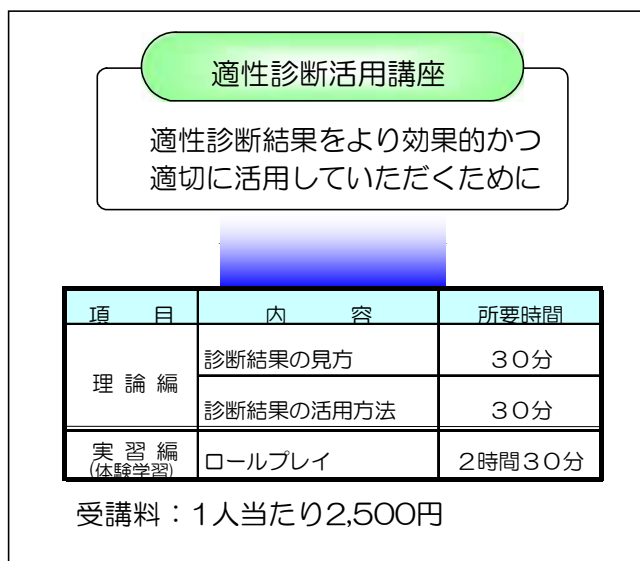
○ 適性診断活用講座については、平成15年度に策定した実施マニュアル及び平成16年度に作成した受講用テキストに基づき、平成16年度の主管支所における試行実施を踏まえ、平成17年度から全支所で実施した。

なお、平成16・17年度の実施状況は、下表のとおりである。

適性診断活用講座の受講者数



適性診断活用講座の流れ
受講風景（理論編）



受講風景(実習編)



2) 次年度の見通し

- 次年度は、重複作業反応テストの助言内容を改良する。
- 引き続き、助言内容の充実を図るため、全カウンセリング担当職員に対し研修を実施する。
- 適性診断活用講座は、前年度に引き続き、全支所において実施する。

（中期目標）

- ③ 職員の資質の向上を図るため、研修制度の充実、カウンセリング技術の取得等を行うこと。

（中期計画）

- ③ 職員の資質を向上させ、助言指導を充実するため、計画的に職員への研修を実施し、中期目標期間中に診断業務担当職員の80%以上に産業カウンセラー資格を取得させる。

（年度計画）

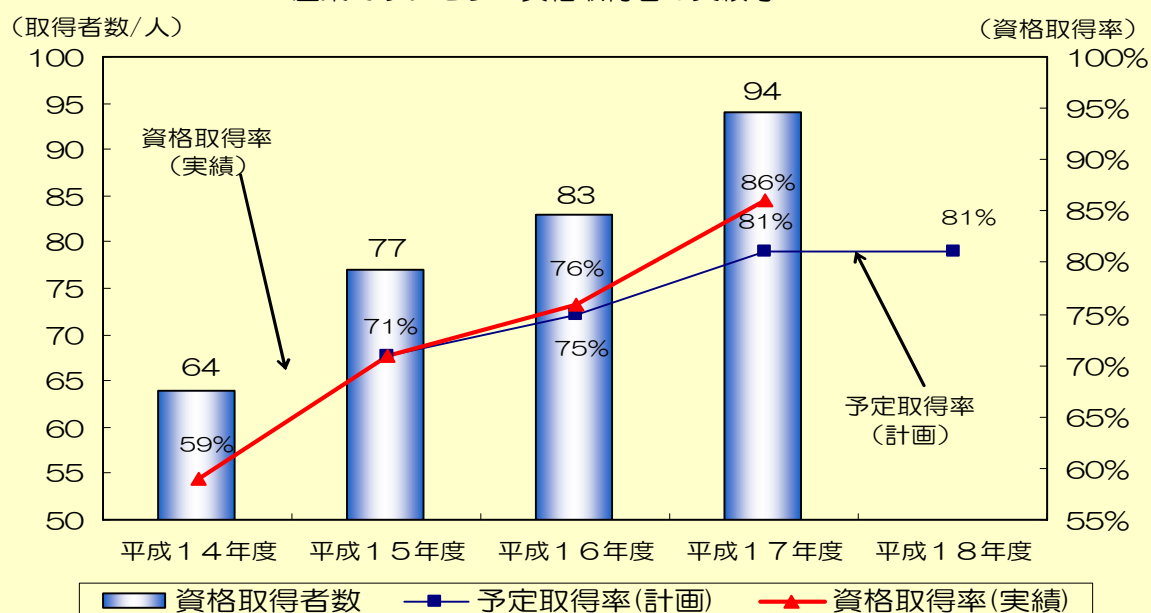
- ③ 産業カウンセラーの資格取得研修を計画的に実施し、適性診断担当職員の80%以上の職員に資格を取得させる。

◎ 年度計画における目標値設定の考え方

中期計画に基づき、産業カウンセラー資格取得計画により、適性診断担当職員のうち80%以上に産業カウンセラー資格を取得させる目標とすることとした。

◎ 実績値

- 平成17年度適性診断業務担当職員のうち86%の職員が産業カウンセラー資格を取得した。
産業カウンセラー資格取得者の実績等



◎ 実績値が目標に達しない場合には、その理由及び次年度の見通し

◎ その他適切な評価を行う上で参考となり得る情報

（中期目標）

- ④ 受診者・事業者のニーズや活用状況を適切に把握し、その結果を適性診断の内容、診断結果の提供等に反映すること。

（中期計画）

- ④ 事業者の運行管理における診断結果の活用を促進するため、支所からオンライン化により得られた全国的な診断結果データを地域別、事業者別、業態別、年齢別に解析し、個人情報の保護を図りつつ、事故防止に資する情報として事業者及び関係者に提供する。

（年度計画）

- ④ 引き続き、平成 15 年度に構築したシステムを活用し、個人情報の保護を図りつつ、事業者及び関係者に情報提供を行う。

◎ 年度計画における目標設定の考え方

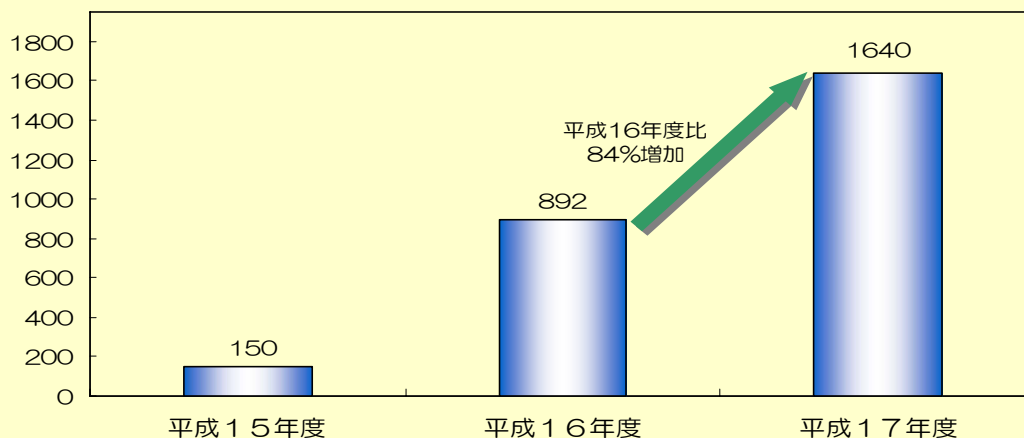
平成15年度に構築したシステムを活用し、事業者及び関係者に情報提供を行うこととした。

◎ 当該年度における取組み及び中期目標達成に向けた次年度の見通し

1) 平成17年度における取組み

- 事業者及び関係者に対して、前年度比84%増加し、1,640件の情報提供を実施した。

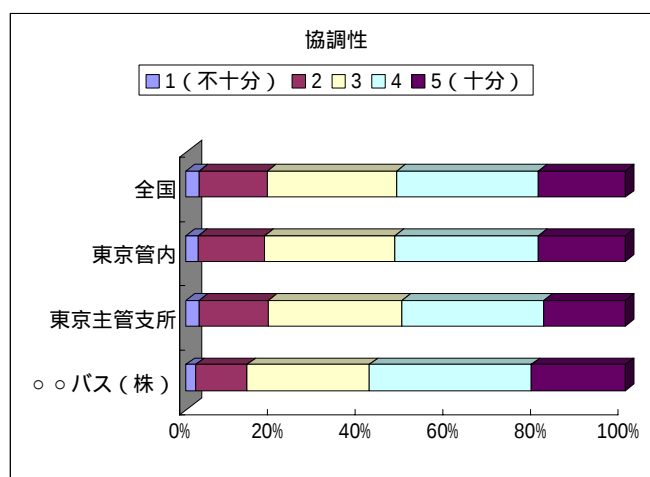
（情報提供件数/件） 事業者及び関係者に対する情報提供件数



【情報提供の例】

全国と自社とのデータ
（診断項目別）

地域別・事業者別・業態別・
年齢別にそれぞれ抽出可能
（ただし、個人データは非開示）



2) 次年度の見通し

引き続き、事業者のニーズに応じ、個人情報の保護を図りつつ、情報提供を実施する。

◎ その他適切な評価を行う上で参考となり得る情報

（中期目標）

- ④ 受診者・事業者のニーズや活用状況を適切に把握し、その結果を適性診断の内容、診断結果の提供等に反映すること。

（中期計画）

- ⑤ 定期的に受診者・事業者に対する調査を実施し、ニーズ等を踏まえ、適性診断の内容の充実に反映する。

（年度計画）

- ⑤ 引き続き、受診者・事業者に対する調査を実施し、調査結果に基づき診断の実施方法等の改善を含めた診断内容の充実を行う。

◎ 年度計画における目標設定の考え方

中期計画に基づき、診断内容の充実を行うこととした。

◎ 当該年度における取組み及び中期目標達成に向けた次年度の見通し

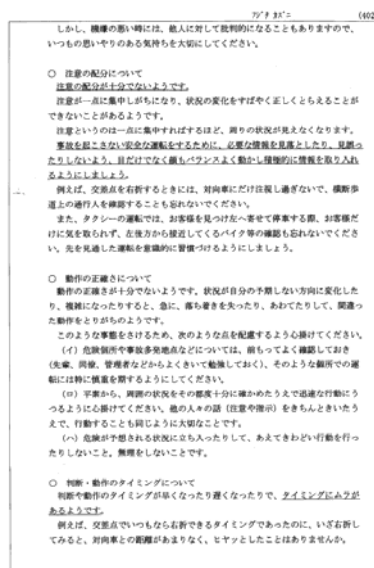
1) 平成17年度における取組み

- 前年度に実施したニーズ調査の結果に基づき、下記のとおり、要望の多い項目を優先に改善を行った。

（1）主な改善内容

- ① 診断内容の改善：平成15・16年度に診断結果のコメントを業態別に改良し、平成17年4月より診断結果票に反映させるとともに注意点を下線で示すことにより、運行管理者が運転者指導を行いやすく改善した。

適性診断票の改良



- ② 診断機器の改善：本所診断機器のディスプレイ画面を反射の少ない液晶画面に改善した。
平成16年度より導入を開始した改良型診断機器の導入を、平成17年度も引き続き、推進している。

新：189台（+123台）、旧：213台（-94台）、計402台

（新）反射の少ない液晶画面



諸元
奥行： 610mm
幅： 700mm
高さ：1,380mm
（フード付き→フード化実現）

（旧）診断機器



諸元
奥行：1,177mm
幅： 800mm（隣接入°-を含む。）
高さ：1,350mm
（フード無し）

- ③ 土日の開業：受診者の受診機会を拡大させるため、平成18年4月から土曜開業支所を前年度に比べ4支所増の45支所とした。

なお、平日のみの開業支所については、要望調査を実施した結果、開業要望が少なかったため、土曜開業を実施していない。

土曜開業支所の推移

	平成 17 年 4 月	平成 18 年 4 月
第1・3土曜日開業	35 支所	38 支所
第3土曜日開業	6 支所	7 支所
土曜日開業計	41 支所	45 支所
平日のみ開業	9 支所	5 支所
合 計	50 支所	50 支所

- ④ 受付の改善：受付の効率化を図るためにディスプレイ表示装置を活用し、診断種別ごとに受付を案内する等、受診者の受付時の待ち時間の短縮、時間待ちのイライラの解消等受診環境を改善した。

環境改善に寄与するディスプレイ表示装置

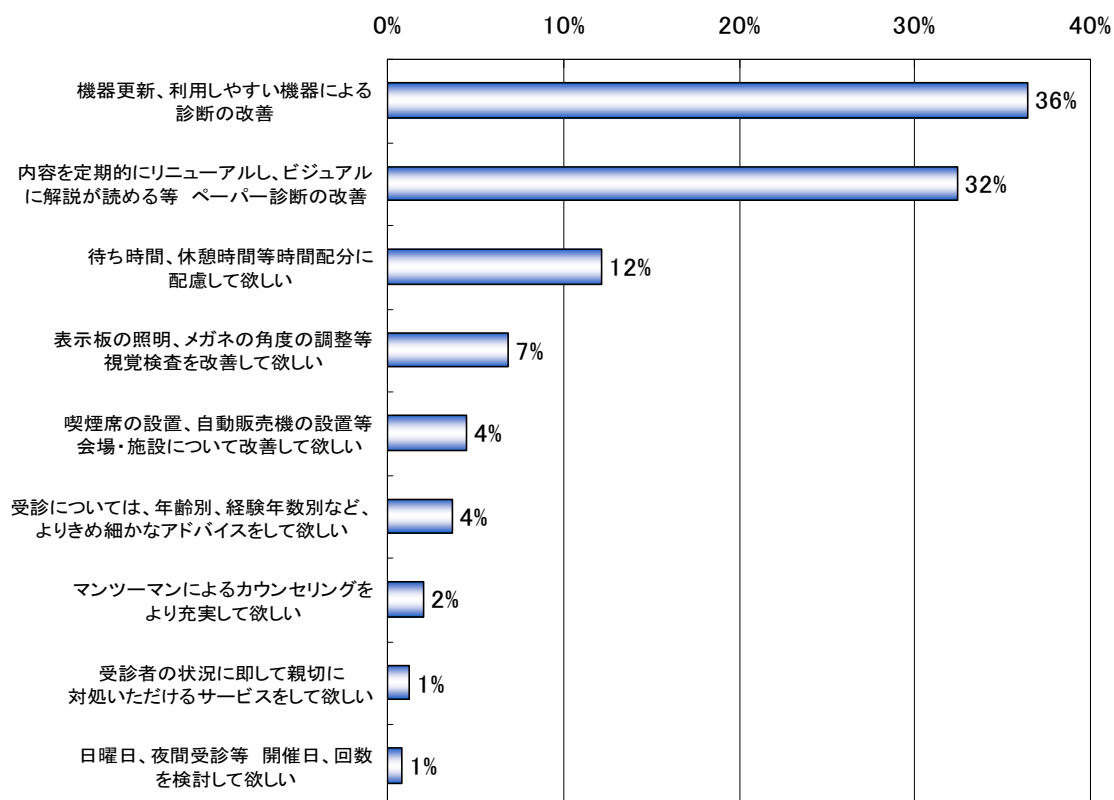


東京主管支所に設置

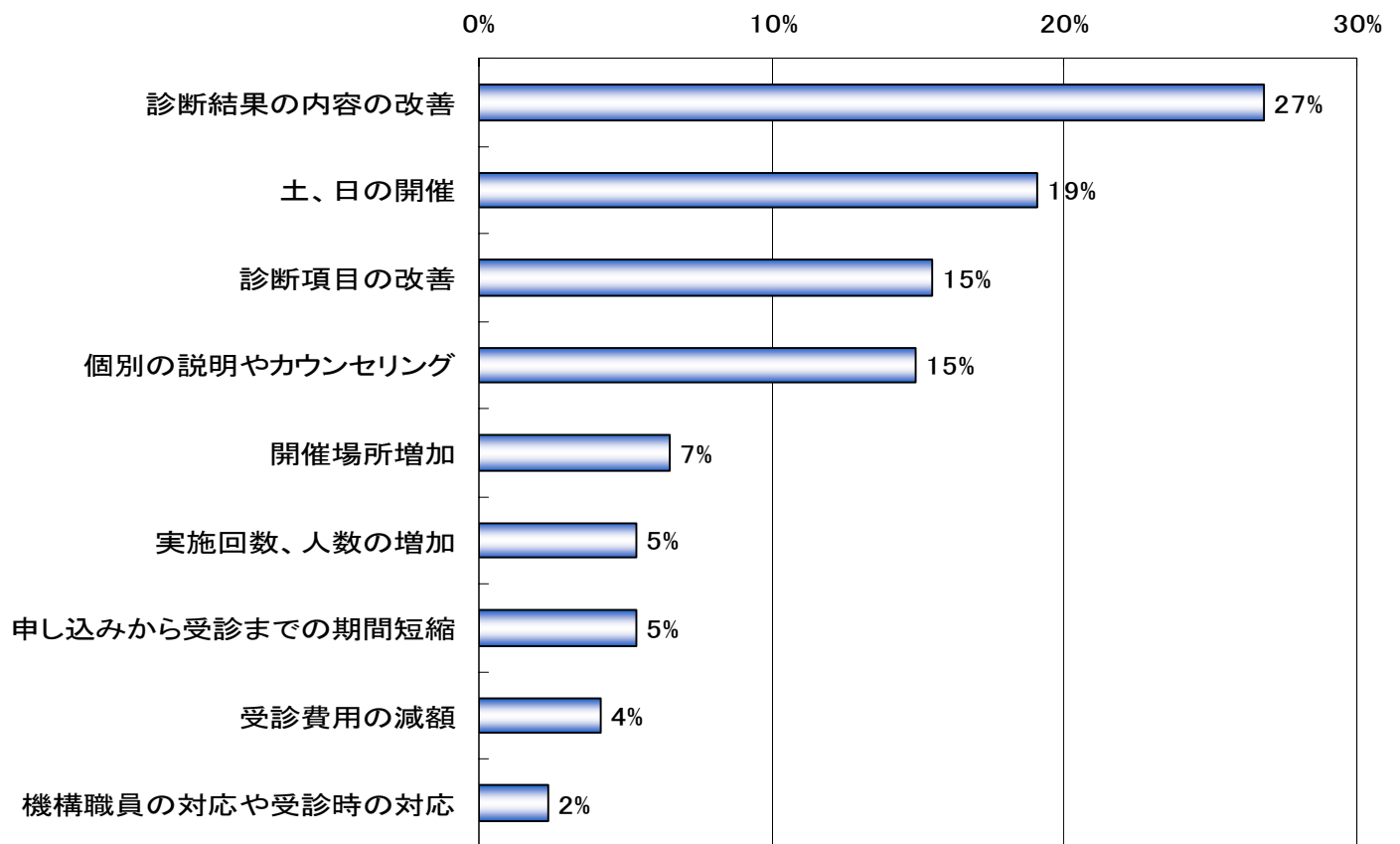


＜参考＞ 平成16年度、受診者（1,313人）、事業者（2,000社）に対して調査を行ったところ、受診者（1,313人）、事業者（1,043社）から回答を得た。

平成16年度調査：受診者の要望項目



平成16年度調査：事業者による適性診断に関する要望項目



(2) 受診者、事業者に対して、調査を実施した。

【調査の概要】

- ・調査期間：平成18年1月～3月
- ・調査対象：全主管支所の平成18年1月～2月の受診者
受診者に対する調査の回収率等

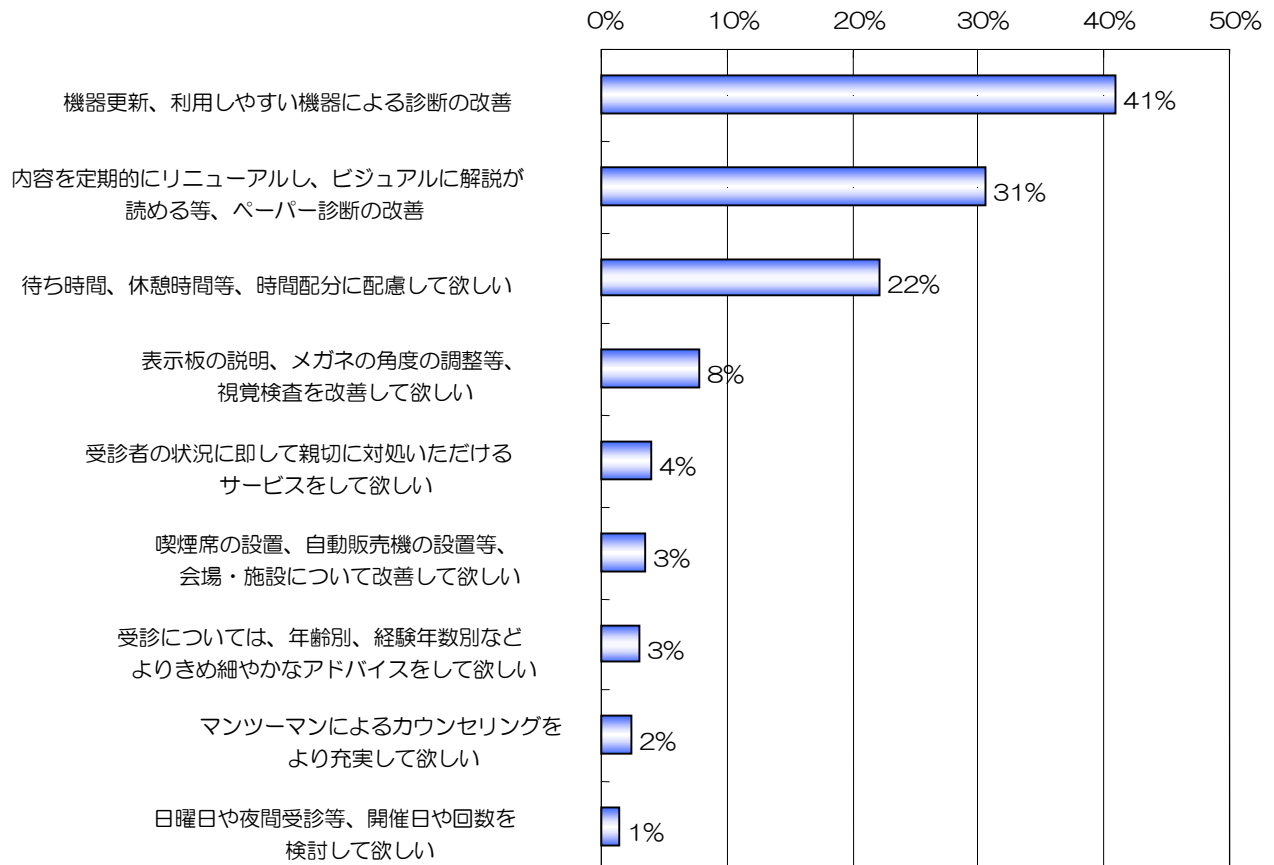
項 目	一般診断	初任診断	適齢診断	特定診断	全 体
受診者数	57,129	27,943	6,085	675	91,937
調査件数	813	434	84	54	1,385
回収件数	813	434	84	54	1,385
回 収 率	100%	100%	100%	100%	100%

【調査の概要】

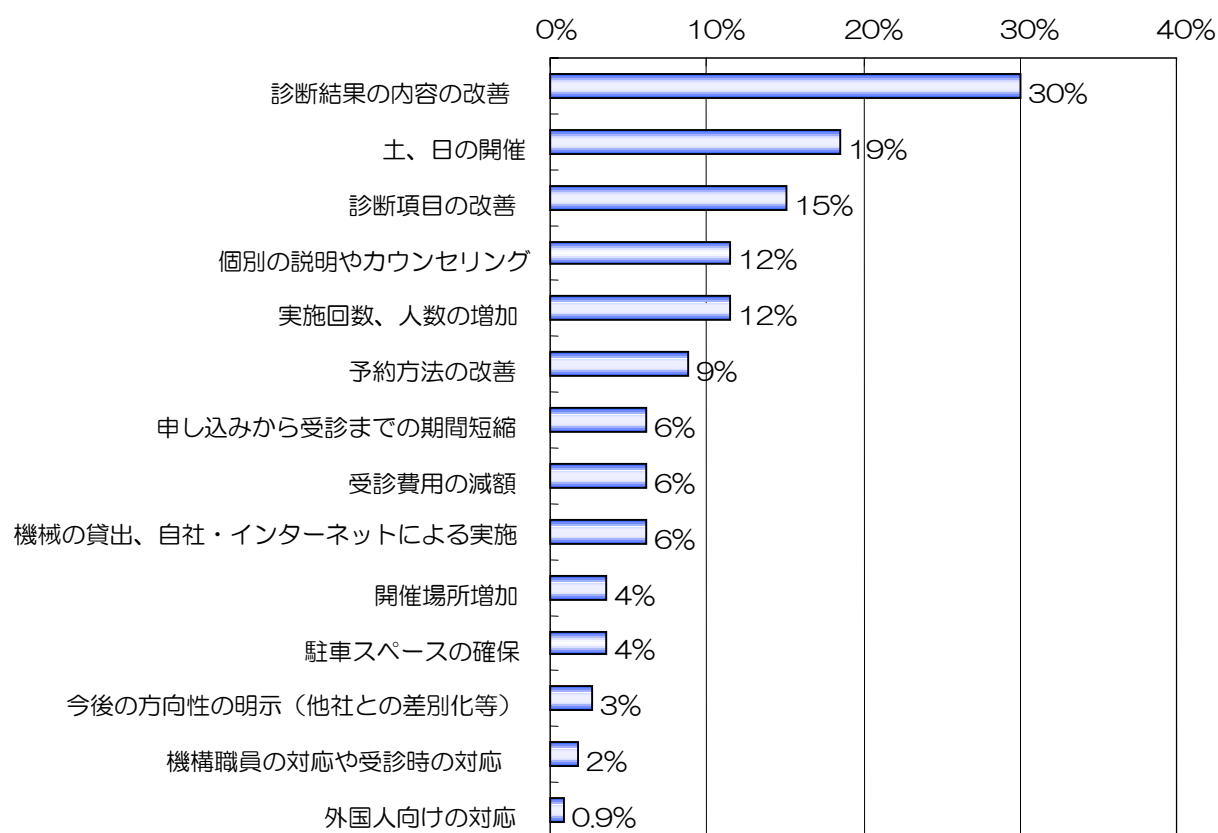
- ・調査期間：平成18年1月～3月
- ・調査対象：全主管支所の対象事業者
事業者に対する調査の回収率等

項 目	バ ス	ハイタク	トラック	全 体
事業者数	1,015	2,456	20,885	24,356
調査件数	109	377	1,514	2,000
回収件数	82	231	726	1,039
回 収 率	75.2%	61.3%	48.0%	52.0%

平成17年度調査：受診者の要望項目



平成17年度調査：事業者による適性診断に関する要望項目



2) 次年度の見通し

平成17年度の調査結果に基づき、診断内容の改善、診断機器の改善及び受診環境の充実など、効果を勘案しつつ、要望の高かった事項を改善するとともに、引き続き、受診者・事業者のアンケート調査を実施して診断内容の充実を目指す。

◎ その他適切な評価を行う上で参考となり得る情報

（中期目標）

⑤ 以上により、事業者の安全対策の充実・改善を促進し、事故防止効果を高めること。

（中期計画）

⑥ 以上の施策を実施することにより、受診者・事業者に対する5段階評価の調査における安全対策への支援効果に関する評価度について、中期目標期間の最後の事業年度までに4.0以上とする。

（年度計画）

⑥ 以上の措置を講じることにより、受診者・事業者に対する5段階評価の調査における安全対策への支援効果に関する評価度（平成17年度）について、4.0以上とする。

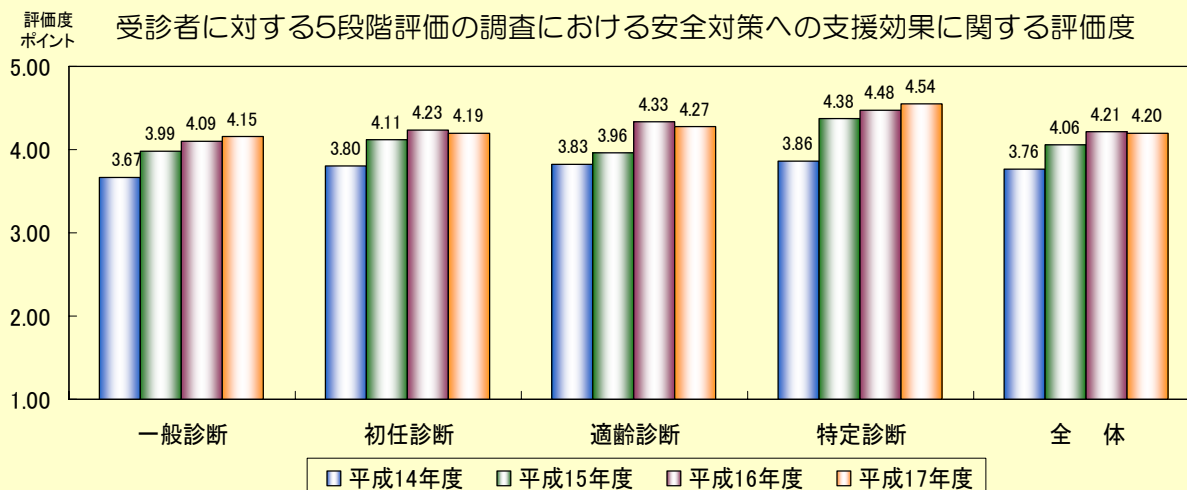
◎ 年度計画における目標値設定の考え方

前年度（平成16年度）に引き続き、4.0以上の評価を獲得することとした。

◎ 実 績 値

○ 受診者の評価度

5段階評価で4.0以上を確保しているものの、平成16年度より、全体で0.01ポイントわずかに低下した。



【調査の概要】

- ・ 調査期間：平成18年1月～3月
- ・ 調査対象：全主管支所の平成18年1月～3月の受診者

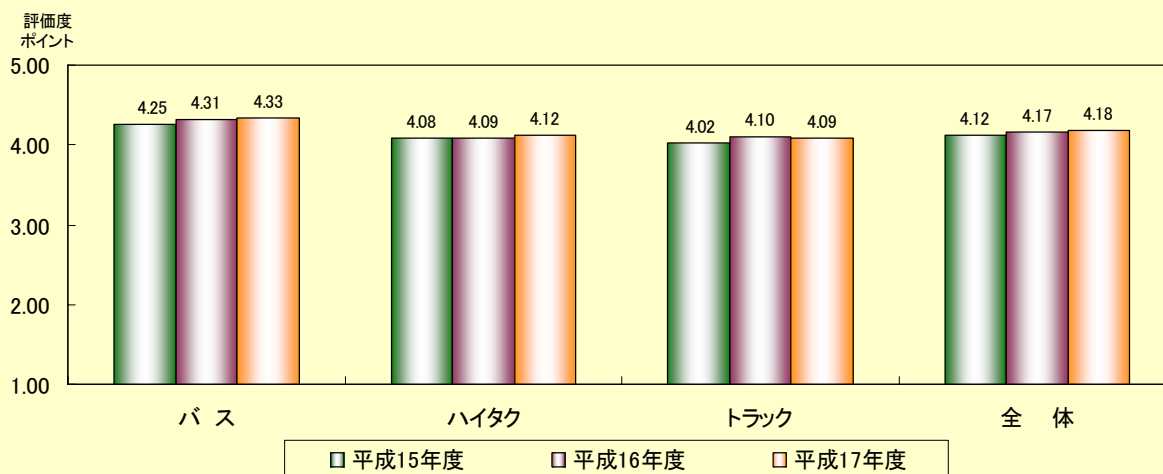
受診者に対する調査の回収率等

項 目	一般診断	初任診断	適齢診断	特定診断	全 体
調査期間中の受講者数	57,129	27,943	6,085	675	91,937
アンケート調査配布件数	813	434	84	54	1,385
回 収 件 数	813	434	84	54	1,385
回 収 率	100%	100%	100%	100%	100%

○ 事業者の評価度

平成16年度より全体で0.01ポイント向上させた。

事業者に対する5段階評価の調査における安全対策への支援効果に関する評価度



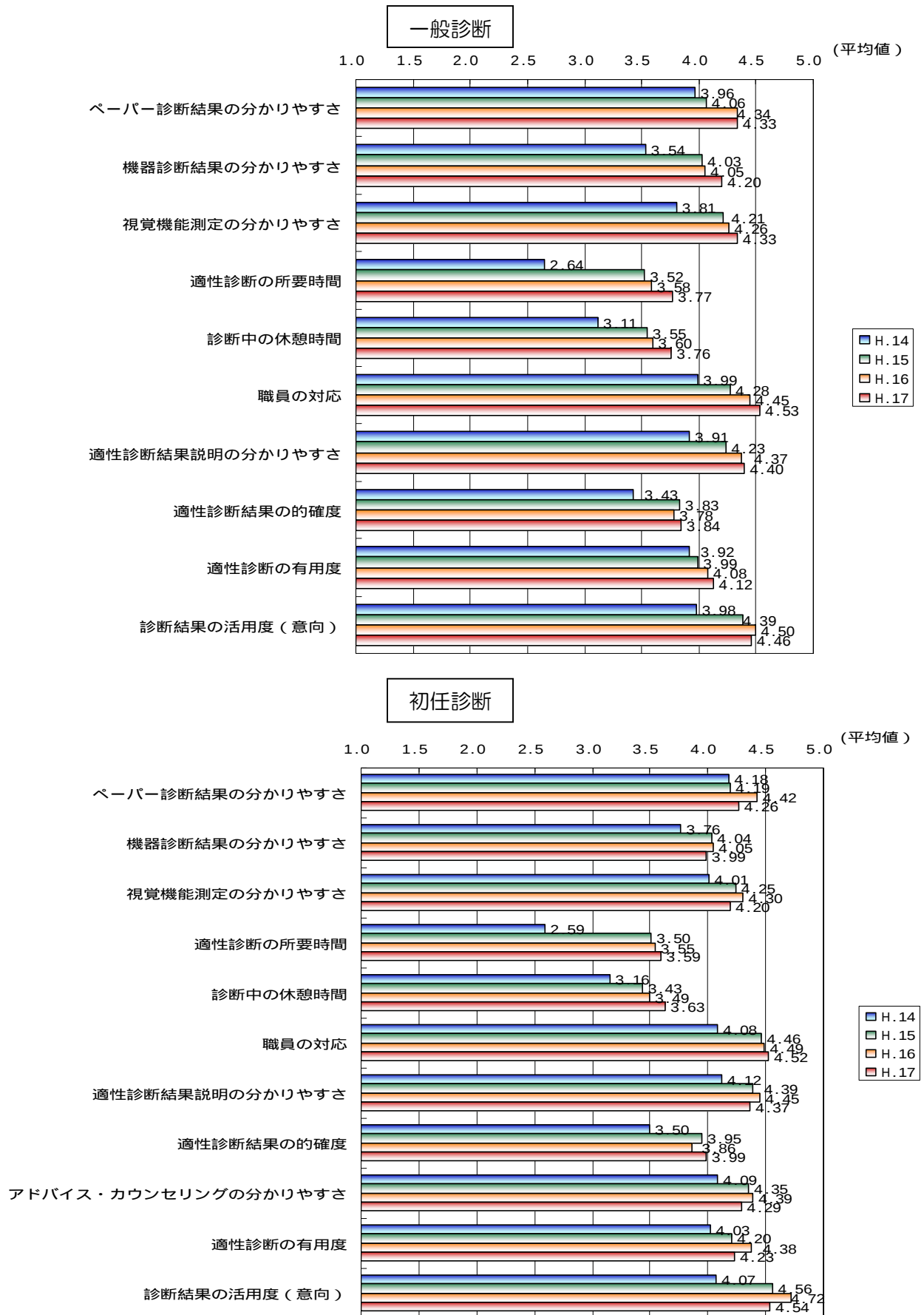
【調査の概要】

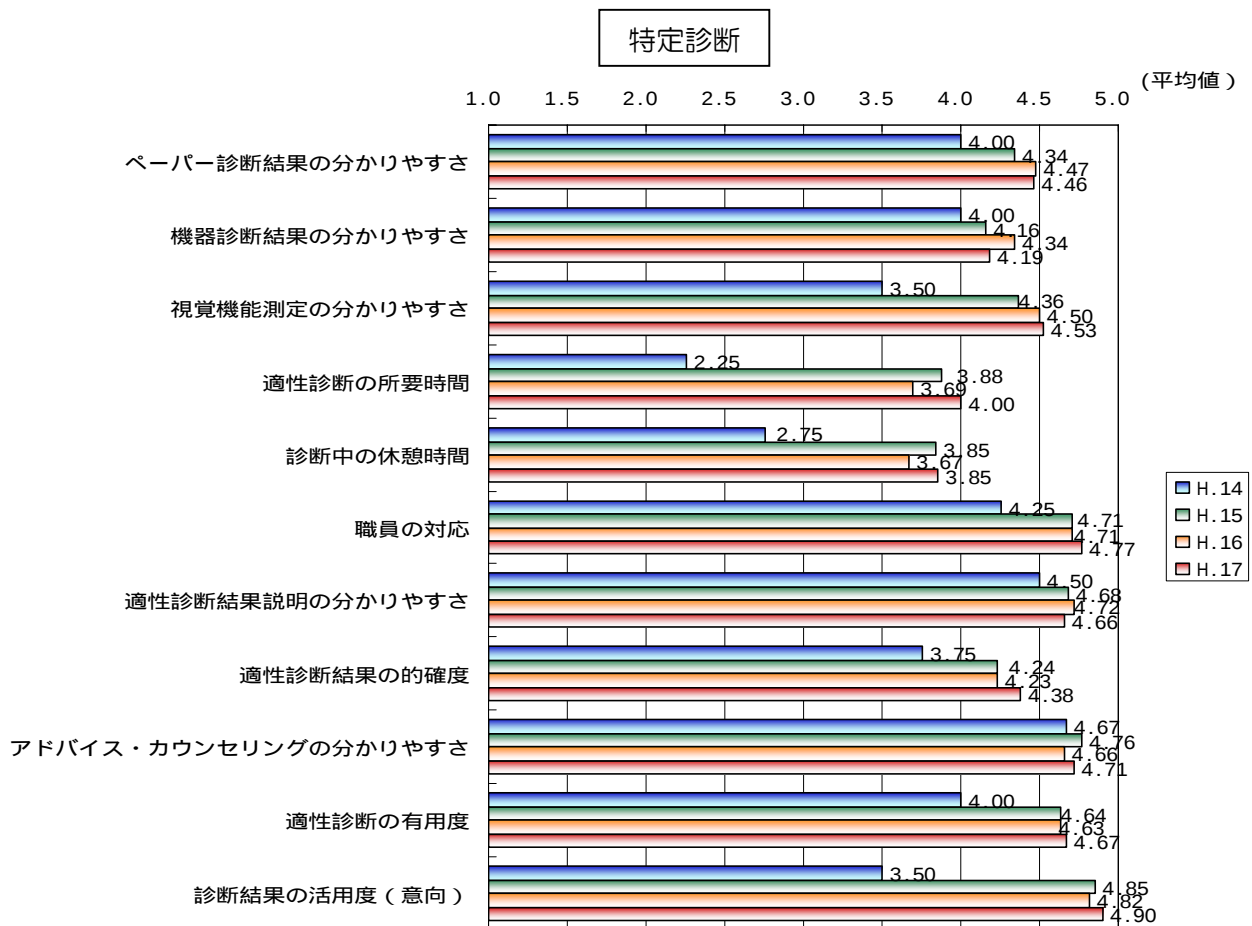
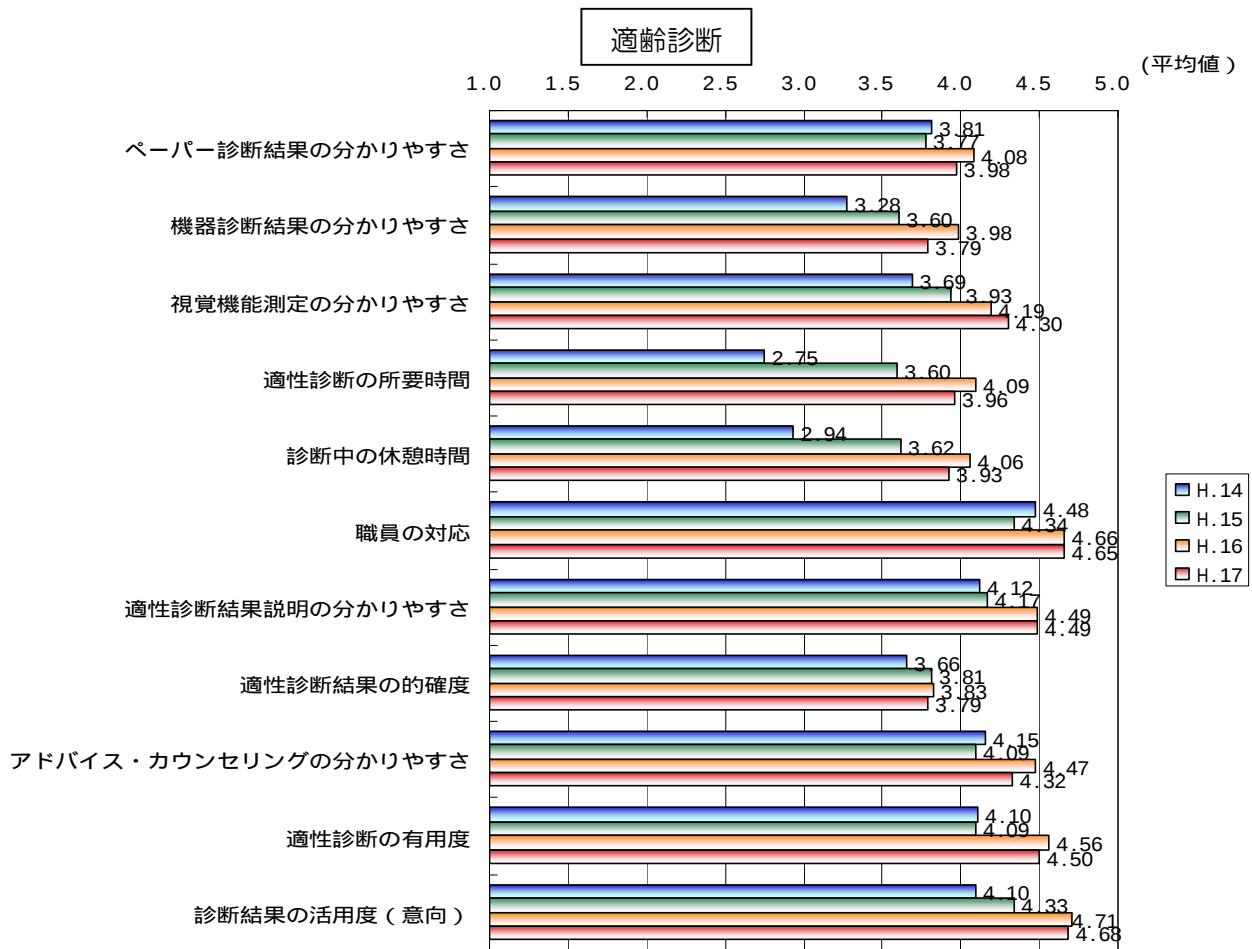
- ・ 調査期間：平成18年1月～3月
- ・ 調査対象：全主管支所の対象事業者数

事業者に対する調査の回収率等

項 目	バ ス	ハイタク	トラック	全 体
事業者数	1,015	2,456	20,885	24,356
調査件数	109	377	1,514	2,000
回収件数	82	231	726	1,039
回 収 率	75.2%	61.3%	48.0%	52.0%

適性診断別安全対策への支援効果に関する項目別評価





◎ 実績値が目標に達しない場合には、その理由及び次年度の見通し

◎ その他適切な評価を行う上で参考となり得る情報